

表情とまなざし

H30. 1. 30 住吉小 坂井



30年も前の話で恐縮です。村上のある学校に勤めていた際に、私の授業を見てくださった先輩教員から、「担任はもっと笑顔で授業をしましょう」と言われたことがありました。そうは言われてもなかなか笑顔にはなれないこともあるのですが、それ以来、ときどき「鏡でチェック」といったこともありました。

今、校舎を回っていると、各教室でたくさんのステキな様子を目にすることができます。子どもたちの表情はもちろん大人よりも豊かなのですが、授業者も負けてはいません。その瞬間をとらえてみました。



国語の時間もリズムミカルなA先生



社会科の時間オーバーアクションのB先生



プリント配布時にもこやかなC先生



ランドセルをしょって生徒指導のD先生

「教師には役者のセンスが必要だ」と言われることがありますが、当校の教員には、結構「役者」が多くいることに驚いています。

学校職員は、多くの時間子どもたちと接しています。いつもニコニコ顔で過ごすことはできません。静かな学習環境を過ごす時間、注意をしたり諭したりする時間もあります。教師自らが気持ちをコントロールしなければならないときもあります。でも、できるだけ笑顔は大切にしたいと思っています。

個々の子に対するとき、私たちは様々なまなざしを向けます。温かなまなざしを大切にしていって、個々の子の話（その子のこと）を受け止めることを大切にしています。真剣な態度で子どもに向き合い、話をするときもあります。楽しいおしゃべりのときもあります。

2月にも、学習参観日があります。ご来校の際には、子どもたちと学校職員の表情等にもご注目ください。また、保護者の皆様方からも、授業を参観されるときには、どうぞゆったりと子どもたちを見守っていただければありがたいです。

1月の学校の生活のめあては、「気持ちのよいあいさつをしよう」です。気持ちを表情やまなざしに乗せてあいさつを交わしたい。子どもたちを囲む大人の柔らかな表情とまなざしが、子どもを育てるよき環境の一つではないかと思うのです。



pixiv.jp - 19450613

私自身、いまだに（あるいは年齢を重ねて特に？）表情が堅いようです。そんなときには、「もっと笑顔で」と合図を送ってください。（実は、「表情が堅いぞ」は、我が子が頻繁に私に送ってくる注意なのです。）

